

## C型肝炎の治癒(ちゆ)をめざして

C型肝炎は、血液を介してC型肝炎ウイルスに感染することで、肝臓に炎症が起こる病気です。約70%の患者さんが慢性肝炎となり、放置すれば、肝硬変から肝臓に至り、命に関わる病気です。肝炎が進行する前に治療し、ウイルスをなくすことにより、C型肝炎で命を落とすことを避けることができます。

保健所では、今まで肝炎ウイルス検査を受けることができなかった人を対象に、無料でC型肝炎、B型肝炎の肝炎検診を実施しています。奈良県は、全国的にみて、肝炎検診を受けている人が少なく、しかも検査を受けて精密検査が必要なのに、医療機関を受診していない人が多いという全国集計があります。まだ肝炎検査を受けていない人は、一度は肝炎検査を受けるようにしましょう。

最近、これまで使われていた注射剤であるインターフェロンを使わない、飲み薬だけのC型肝炎の新しい治療薬が次々と発売されています。2014年夏に日本で初めて、飲み薬だけの治療薬が発売されました。しかも、インターフェロンの治療では、およそ5割程度しか、ウイルスが消えなかったのに、飲み薬だけで約85%の人のウイルスが消えるようになりました。その後、次々と、新薬が発売され、現在では12週間の飲み薬だけで、95%前後の人で、ウイルスが消えるようになりました。しかも、インターフェロンのように、熱が出たり、倦怠感が増強したり、鬱になるというような副作用もほとんどありません。もちろん副作用がまったくないわけではないので、定期的な受診が必要です。

C型肝炎の飲み薬は、12週間で数百万円と高額な薬ですが、国と奈良県より医療費の助成があります。納めている税額で自己負担額が変わりますが、世帯の住民税が23万5千円以上の人で月に2万円、それ未満なら月に1万円の自己負担額で12週間は治療を受けることができます。ただし、ウイルスが消えてもその後に肝臓になったという報告がありますので、定期的な血液検査や超音波検査などの画像検査は受けた方がいいと思われます。

このインターフェロンを使わない飲み薬だけの治療は、肝臓専門医にしか認められていません。市立病院には肝臓専門医が複数勤務していますので、該当すると思う人は、一度受診することをお勧めします。